

第1回利賀地域義務教育学校設置協議会会議録（要点記録）

【日時】 令和4年9月9日（金）開会：午後6時 閉会：午後7時25分

【場所】 利賀市民センター 2階会議室

【出席委員】 成瀬 喜則 委員長 松本 謙一副委員長 扇澤 文夫 委員
笠原 一忠 委員 城岸 千秋 委員 須河紗也子 委員
瀬戸 広美 委員 高瀬 夕紀 委員 高田 公美 委員
棚田 賢也 委員 野原 哲二 委員 邑上 貴厚 委員
米倉 健太 委員 米倉 宗嗣 委員

【事務局員】 教育部長 村上 紀道 教育総務課長 氏家 智伸
教育総務課副参事 吉尾 徹 教育総務課主幹 山田 浩司
南砺市教育センター長 山田由紀子 こども課長 溝口 早苗
利賀市民センター統括 笠原 哲夫

【協議事項等】

- 1 教育長あいさつ
- 2 組織について
 - (1) 委員の委嘱及び任命
 - (2) 委員長、副委員長の選出
 - (3) 委員長の挨拶
- 3 協議会の設置について
 - (1) 協議会設置の背景 資料1
 - (2) 協議会の名称および協議会設置要綱（案）資料2
- 4 協議・連絡事項
 - (1) 義務教育学校の特徴と利賀小・中学校のこれまでの取組 資料3
 - ①義務教教育学校の特徴
 - ②利賀小・中学校の紹介（プロモーションビデオの視聴）
 - ③これまでの利賀小・中学校の義務教育学校設置にむけた試行的な取組
 - (2) 協議会における協議事項等について 資料4
- 5 副委員長の挨拶

1 教育長挨拶

教育長 南砺市立学校あり方検討委員会からも、義務教育学校にする方向性の提言が出され、そのあと地域づくり協議会長さんに利賀地域のご意見をまとめていただき、3月に要望書を市長の方に届けていただきました。そのおかげでようやく動き出すことができました。この協議

会を立ち上げたからには、1年半後には、今よりも少しでもよい環境で子供達が過ごせる学校を作っていきたいと思っています。PTAの方、地域の方の意見を集めて、利賀小中学校でもよりよいものを考えていただき、子供たちのために令和6年4月の開校に向けて進めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2 組織について

事務局 名簿にあります14名の方を今回の設置協議会の委員に委嘱、任命させていただきます。事務局についても名簿のとおりです。協議会の庶務担当は、教育総務課です。次に委員長及び副委員長の選出についてお諮りします。委員長及び副委員長の候補者について、事務局から提案させていただいてもよろしいでしょうか。

【異議なしとの声】

富山大学大学院教授の成瀬喜則委員に委員長、そして副委員長に南砺市教育委員会教育長の松本謙一委員を推薦します。委員の皆様のご了承により決定したいと思いますのでご異議がなければ拍手をもってご承認をお願いします。

【拍手多数】

委員長に成瀬喜則委員、また副委員長には松本謙一委員に就任させていただきます。成瀬委員長と松本副委員長には、今後の協議会運営の総括をお願いいたします。成瀬委員長からご挨拶をいただきます。

委員長 今回、義務教育学校の設立ということで大任を仰せつかっておりますが、皆様方のご協力をお願いします。小学校、中学校とも学校自体もいろんな課題を抱えています。全国的な課題もありますし、もう一つは地域としての学校の課題もあると思います。その一方で、学校は地域と一緒に生きて行く、そういう学校でなければいけないと感じております。子供たちが生き生きと学べるような学校になっていくように、皆様方のお知恵を拝借して一緒に考えさせていただきますと思っています。

事務局 次に協議会の設置について入らせていただきます。ここからの進行は成瀬委員長にお願いします。

3 協議会の設置について

委員長 協議会の設置の背景について事務局の方から資料の説明をお願いします。

事務局

【協議会設置の背景について説明】

委員長 資料1について別添5までの説明をしていただきました。南砺市の総合計画や教育振興計画というところも絡んでくると思いますので、ご質問ご意見をかうかがいたいと思います。

委員長 利賀地域の山村留学について説明をお願いします。

事務局 利賀地域においては、1年間単位の山村留学事業を昨年度から開始しています。2年目の現在は、13名の留学生が、スターフォレスト利賀の留学センターに1か月のうち20日間、残りの10日間を村内のご家庭でホームステイするというサイクルで1年間を過ごしています。子供たちは、利賀の小中学校に通学しており、利賀の子供、山村留学の子供が分け隔てな

く整った教育環境の中で学習をしています。

委員 A 一年単位という形ですが、希望すれば継続することも可能です。募集対象は小学3年生から中学3年生までとなっていて、約半数が昨年度からの継続です。週末には利賀地域や富山県内でいろいろな自然体験活動、畑や田の活動を通して利賀地域でのふるさ教育等の指導をしています。

委員長 いろんな子供たちとの触れ合いの中で、他人を尊重する、いろいろな人を認めるという気持ちを育てるよい取り組みだと思います。2番の主な取組の中でも小中連携もあり、義務教育学校になると下級生と上級生が交わる、そのような形を目指しているのかなと感じています。

委員 B 義務教育学校については、今年の3月に要望書を提出しました。令和6年度から開始という話があり、4月頃、動かなければならないと考えておりました。5月ごろから義務教育学校について進めなければならないということで、皆さんがどう考えているのかうかがいたかったので7月6日に意見交換会を開きました。小中学校の育成会、利賀ささゆり保育園の父母会の方に集まってもらい、意味のあるいろいろな意見が出ました。それを受けて第2回を8月5日に開催しています。意見集約をして少しずつ準備を進めているところです。

委員 C 地域にどうしても学校を残さなければだめだという熱い思いから、地域づくり協議会では早くからのこの問題については取り組み、要望書を出そうということで活動をしてきました。すでにアースで小中学校が一緒に教育を進めているということから、なかなか地域の皆さんと保護者の皆さんの意見が伝わってきませんでした。今年3月に要望書提出となりました。提言書では、令和7年からの開始の計画となっていました。市長に要望したところ、令和6年度からでもできるのではないかといわれました。環境という点では整っていると思いますが、まだまだ地域で決めなければいけないこと、保護者で決めなければいけないことがあり、これを機会にいろいろなことを問題提起しながら進めていきたいと思っています。

委員長 利賀地域において義務教育学校を開設するということには、これから解決しないといけない問題はあると思いますが、ご異論はないようです。設置協議会では、利賀小学校と利賀中学校を義務教育学校として令和6年4月の開校を目指すということでこれから協議を進めて行きたいと思いますがそれでよいでしょうか。

利賀地域義務教育学校設置協議会という名称で、委員の委嘱は2年間、本日から令和6年3月31日まで任期が決められています。ただし教育委員会が必要と認めたときはその任期を延長することができるということです。学校側の方で何か考えることがありますか。

委員 D 私どもが異動になった場合はどうなるのでしょうか。

事務局 任期の途中でやむを得ず交代ということが考えられます。先生方の異動それからPTAの方の役員の交代ともありますのでそれについては柔軟に対応していかなければならないと考えております。

委員 E この地域に学校がよい形で残るように地域の要望も集めて意見していきたいと思っています。

委員 F 利賀地域の学校がどうなっていくかということを見ていました。その一つの方法として山村留学が入って、大変うまく進んでいると思っています。子供たちの数が少なくなっていくどこかに統廃合しなければいけないのかと思っていましたが、義務教育学校という方法をと

ることはいいことだと思います。具体的にどうなるかという点では、南砺つばき学舎などを参考にしながらこれから利賀地域をよりよいものにしていくのがいい、そういう意味で義務教育学校を検討するのはいいことだと思います。

委員長 皆様の前向きなご意見ありがとうございます。南砺つばき学舎については、この後の協議事項の中で、お聞きしたいと思います。名称を利賀地域義務教育学校設置協議会とさせていただきます。設置要綱案につきましても提案された形で進めます。ここからは協議連絡事項に移ります。義務教育学校の特徴と利賀小中学校のこれまでの取り組みについて事務局からの説明をお願いします。

事務局 【資料3：義務教育学校の特徴について説明】

委員長 義務教育学校と比較して言われるのが小中一貫校です。小中一貫校というのは小学校中学校にそれぞれ校長先生がいて、かつ小学校は小学校だけで授業をし、中学校は中学校だけで授業する。先生は小学校の先生、中学の先生とそれぞれに分かれている。それに対して義務教育学校は、一つの学校という考え方で1年生から9年生まで、さらに先生は中学校と小学校の区別がなく1年生から9年生まで担当するというイメージでよろしいですね。9年間そのすべての子供たちをみんなで見るという考え方になると思います。

事務局 利賀小中学校の紹介とこれまでの取り組みについて説明します。

【利賀小中学校プロモーションビデオの視聴】

事務局 【これまでの利賀小・中学校の義務教務教育学校設置に向けた試行的な取組の説明】

委員長 ビデオを見させていただいて一つ目に素晴らしい学習環境だと感じました。二つ目はもうすでに小学校と中学校で課外活動の協働をすでに実践していること。山村留学生も明るい表情でとても楽しいビデオでした。

委員 G 令和3年4月に南砺つばき学舎が開校し、今までは渡り廊下でつながっていましたが、一つの校舎で1から9年生が一緒に過ごしています。目指すモデルが身近にいたので、下級生の子供達は上級生に憧れを持っており、上級生は下級生に優しく接しようとしています。子供たちの繋がりはより強くなったように思います。なによりも職員室が一つになったことで一つの組織として子供たちを支援していこうという意識が教職員の中で芽生えたと思います。小学校、中学校両方の免許を持っている教員もいますので、5、6年生の教科担任制も取り入れています。本校では、1年から9年までの図画工作、美術を一人の教員が担当しています。体育も同じようにしています。前期課程、後期課程の区別なく全員で子供たちの支援ができます。

委員 H 南砺つばき学舎の時間割の特徴と教職員の皆さんの負担についてどのように変わったか教えてください。

委員 G 前期課程と後期課程が一緒に生活していますので、時間割を工夫しています。前期課程は一般的な小学校と同じで2限目と3限目の間に中休みが必要です。後期課程は、一般的な中学校と同じで、授業と授業の間は10分間です。中休みをうまく調整して前期課程と後期課程の3限目の開始を同時にしています。1限目、3限目、5限目のスタートをそろえています。授業のスタートをところどころ一緒にすることで教員が移動できるのであまり負担に感じて

いないと思います。少人数なのでT1、T2として一つの教室に二人の教員が入ることが多いです。そのような面でもよりきめ細かな指導ができるので、持ち時間数についても多くなく教員はお互い協力しあって進めています。

委員長 授業時間が微妙に違うんですね。前期課程と後期課程で時間を合わせないといけないということがうまく工夫されていますね。

委員B 校区外からも児童生徒を募集していますか。

副委員長 最初はそのような案もありましたが、来年度から南砺市全ての学校が特認校ということになり、南砺つばき学舎だけ先に行くことはできませんでした。

委員B 学年の違和感、7年生、8年生、9年生など生徒は問題なく過ごしていますか。

委員G これまでも合同運動会とか学習発表会を合同で行って行っていましたので、登校も清掃も1から9年生の縦割りで活動しています。2階では1、2年生の教室は隣り合っています。その前に学年ホールがあります。それぞれ低学年、中学年の学年ホールがあり、利賀小中学校さんのように2学年合同で学習したりしています。3階では5、6年生が隣り合っていて、高学年のスペースがあります。反対側に7、8、9年生の中学生に当たる学年がいます。まじかに7、8、9年生がいますので、5、6年生は教科担任制の様子を見えています。

委員B 開校までは、学年区分を4-3-2制とする考えもあったようですが。

委員G 1から6年生の学習指導要領と7から9年生の学習指導要領があり、6年と3年で途中で区切ることはありません。

副委員長 全国で初めて義務教育学校ができたときは、4-3-2で5年生から中学1年生までで一つのかたまりを作ったらどうかと考えるところがありました。全国的な動きから見ると、それはあまり機能しなかったということで、南砺つばき学舎で取り入れている4-2-3のほうが動きやすいと思われます。また、初等部の教頭、中等部の教頭と分けて配置している学校がありますが、南砺つばき学舎では、仕事で分担して、9学年まとめて指導に当たる体制をとっています。

委員I わたしの学校は小学校で、1学年2学級の学校ですので、一般的な活動をしています。これまでの話を聞きながら、かなり自由度が広がってくるなというようなことを感じています。山村留學生が加わることで多様性ということも広がると思っています。

委員A これまでに4地域の山村留学に関わってきました。最初に関わった長野県の山村留学地では、かなり早期の段階で義務教育学校化がすすめられました。その学校は4-3-2で分かれていて、地域とつながりを持てる方をお招きして、そのようなところから地域と密接にかかわり、そのおかげで特認校により他地域から子供が入ってきたりしています。ふるさと教育に関しても、大学と連携した取組をしています。

委員長 自由度は高いと思うので特徴づくりは必要かと思います。資料4の説明をお願いします。

事務局 【資料4：協議会における協議事項等についての説明】

委員長 7回程度の協議会を開いて最後は校歌、制服などを含めてすべて決めていくということになります。

事務局 制服やランドセルについては、必要かどうかということから協議が必要かと思われます。山村留学の子供たちのこともありますので、利賀地域に合ったものに協議いただければと思い

ます。

委員 H 井口のほうで準備された期間よりも、利賀の準備期間は半分以下になると思います。例えば学校の制服についても、まず作るか作らないか、もし作るとしたらどういうものにするか、新しいものにするときはデザインとかもある中で、まず保護者に意見を聞いて、地域に意見を聞いて、そのあとここで協議をして決定かと思っています。その場合のスケジュールがすごく短いと思います。地域、保護者の意見を聞くのは私たちの役目だと思っています。協議会が7回ある中で、今年度中に決めなければいけないものがあれば教えてほしいです。

委員長 協議内容が6つありますが、どこまで、いつまで決めるのか、スケジュールについてですね。

事務局 まず視察を考えています。それで他の学校を見ていただいて、いろんなやり方を知っていただく、勉強していただくということを最初にまず考えております。制服などは再来年度開校ということも早めに進めなければならないこと、地域のご意見を聞かなければならないことについては、協議会において地域で考えていただいたことを承認することになります。何を優先してやらなければならないかというところまではまだ整理していないので、次の協議会に向けてはこちらの方で計画をお示しします。

委員長 各部署で話し合いをしてある程度案作りをしていただくことになるとと思います。事務局のほうでスケジュールの方をお願いします。

委員 H 井口では井口学校教育推進協議会と井口小中学校地域協議会が作られていますが、それぞれの協議会のほうをどのような形で運営していったのかというのを教えていただきたい。

副委員長 井口教育推進協議会について地域づくり協議会長を中心に要望書を提出していただき終わっている協議会ではないか。地域部会・総務部会の取組を具体的に考えていただくのでよいのではないのでしょうか。

事務局 1番、2番に関しては、井口地域については、教育委員会はかかわっていませんでした。地域部会については、設置協議会の下部組織として、地域の方々と私共が一緒になってこの協議会にあげる案を作成していたということです。

副委員長 地域が中心となりながら学校と教育委員会も相談相手になりながら進めます。

委員 H PTAのほうで要望をまとめ、地域づくり協議会のほうに要望をお願いし、地域づくり協議会のほうから要望を挙げていただいたという流れだと思います。地域協議会的なものは、利賀地域には設置されていないので、これからどういうふうに進めていけばよいのですか。

副委員長 この点については、事務局と相談しながら進めてほしいのですが、地域が中心となり、学校と相談しながら進めていくことになるとと思います。基本的には地域で進めながら、困ったことや手続きについては相談に応じるということです。

委員長 カリキュラムや学校の特色、教育目標については、小中学校と教育委員会で相談して検討していただいて提案していただくということでいいですね。相互関係とかいろいろ細かいところもあるので学校と教育委員会とで話をしてもらおう形になると思います。

副委員長 いろいろなアイデアを教えてほしいです。地域ならではのよさもあるので、ぜひそれを形づくることを期待しています。どうしてもこれ外せないというところを大事にしていきたいです。

委員長 今の話を聞いておりました学校と教育委員会と地域で一緒に作っていただければよいと思っています。ご意見を積極的に出していただくことはよいことだと思います。子供達の為にいい学校づくりをこれからお願いしたいと思います。これからの協議会で協議して議論して、もどに戻るといふこともあるかもしれませんがそういう形で進めさせてください。先進事例視察について事務局の方からお願いします。

事務局 令和4年10月19日水曜日に岐阜県の白川村白川郷学園の日帰りの視察を予定しています。白川郷学園の見学と校長先生の学校紹介、その後白川村の教育委員会の担当者からの説明で質疑応答等に応じていただきます。

委員長 お忙しいと思いますができるだけ参加いただければと思います。議事進行を事務局にお返しします。

事務局 視察については、改めて出欠の案内をいたします。最後に副委員長よりご挨拶をいただきます。

副委員長 利賀には他にはない大自然や文化が根付いています。そして山村留学では日本中、去年はアメリカからもきていましたが、多様な文化いろんな考えを持った子どもたちが来てくれています。山村留学生にも地元の子どもたちにも価値ある教育活動ができつつあります。人数が少ないことは、確かにマイナスととれるかもしれませんが、これはマイナスではなくてこれが利賀のよさなんだと、これをどうやって子供達に返していくかということをして形にできるそんなチャンスがやってきたのではないかと思います。ぜひこれからも委員の皆さんと一緒にあるいは地域の皆さんとみんなでアイデアを出して子供たち地域の子供たちも山村留学の子供たち今から生まれる子供達にとってもここで育ってよかったなと思えるようなそんな学校を作っていきたいと思っています。